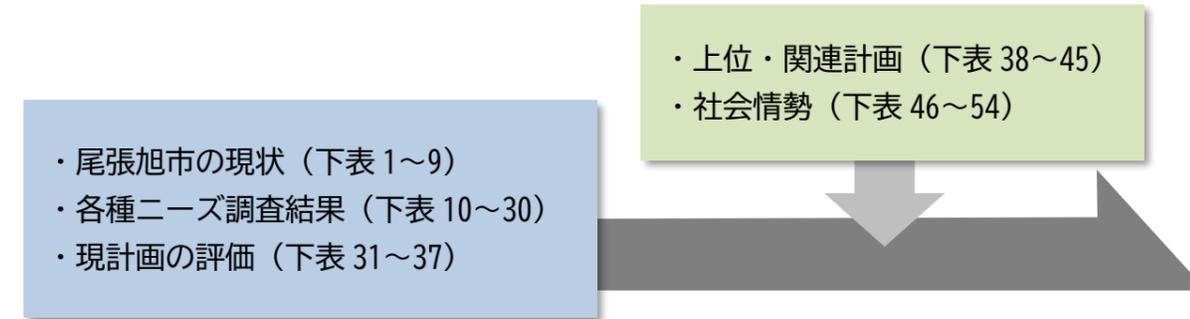


## 尾張旭市における都市交通の課題整理

## (1) 尾張旭市の交通に関する集約課題設定の考え方



## 尾張旭市の交通に関する集約課題

- ① 広域交通軸の確保・維持  
(対象：名鉄瀬戸線・名鉄バス・名古屋市営バス・一般タクシー・自動車)
- ② 名鉄瀬戸線各駅を中心とした交通体系の確保・維持  
(対象：名鉄瀬戸線・名鉄バス・名古屋市営バス・あさぴー号・一般タクシー・自動車)
- ③ 道路空間の質的向上  
(対象：自動車・自転車・徒歩)
- ④ 持続可能な交通体系の構築に向けた関係者の連携・協働  
(対象：行政・交通事業者・市民)

## (2) 尾張旭市の現状と個別課題

調査項目	現状・個別課題	集約課題			
		①	②	③	④
尾張旭市の現状 P1~17	1 本市の人口は増加傾向にあったが、今後は減少し、高齢者の割合が増加していく見込みである。	○	○	○	
	2 市内を運行する鉄道、バスといった公共交通によって、主な居住区域はカバーされており、交通空白地域はない。		○		
	3 市内の主な公共施設、商業施設、病院等は公共交通でアクセス可能である。		○		
	4 通勤通学については、市内への流入より市外へ流出する人が多く、特に名古屋市との結びつきが強くなっている。	○			
	5 本市に関連するトリップについて、目的では「自由」の割合が、代表交通手段では「自動車」の割合が年々増加している。	○	○	○	
	6 本市の代表交通手段別構成は、自動車が約7割で増加傾向にあるが、公共交通は約1割で減少傾向にある。	○	○	○	○
	7 本市の自動車保有台数は横ばい傾向で、1世帯当たりの保有台数は愛知県平均よりも低くなっている。	○	○	○	
	8 各種公共交通の利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大幅に減少し、その後わずかに回復が見られる。	○	○		○
	9 本市の人身事故発生件数は近年減少傾向にあったが、令和3年は256件で前年を上回った。		○	○	
市民アンケート P18~22	10 60歳以上の方で80歳頃までに運転免許証を返納しようと思う人は約7割で、返納後に利用したい交通手段は、徒歩に次いで、あさぴー号、名鉄瀬戸線の割合が高くなっている。	○	○		
	11 平日の外出は「通勤」や「買い物」目的、代表交通手段は「自動車」「鉄道」となっている。休日は「買い物」目的で「市内」を目的地として「自動車」が代表交通手段となっている。	○	○	○	
	12 名鉄バス、名古屋市営バス、あさぴー号、一般タクシーは、満足度について「わからない」の回答割合が高い。	○	○		○
	13 名鉄瀬戸線は「運賃が高い」、各種バスについては「運行本数が少ない」が不満項目として挙げられている。	○	○		
鉄道・路線バス利用者アンケート P23~26	14 自由意見では、藤が丘駅へのアクセスや南北方向の公共交通での移動、三郷駅周辺の整備と渋滞の解消が多く挙げられた。	○	○	○	
	15 鉄道・路線バス利用者の自家用車の利用頻度は、「週に2~3回」の割合が最も高く、次いで「ほぼ毎日」が高くなっている。	○	○	○	
	16 名鉄瀬戸線の総合的な満足度のうち「満足」+「やや満足」の割合は約8割で、満足度が最も高い項目は「運行経路」となっている。それに対して、不満割合（不満+やや不満）が約4割で最も高い項目は「運賃」となっている。	○	○		
事業者ヒアリング P28~30	17 名鉄バスの総合的な満足度のうち「満足」+「やや満足」の割合は約5割で、満足度が最も高い項目は「路線図や時刻表のわかりやすさ」及び「バス停までの距離」となっている。それに対して、不満割合（不満+やや不満）が約5割で最も高い項目は「運行ダイヤ」となっている。	○	○		
	18 名古屋市営バスの総合的な満足度のうち「満足」+「やや満足」の割合は約7割で、満足度が最も高い項目は「運行経路」となっている。不満割合は全体的に低いが、不満割合が約2割で最も高い項目は「バス停までの距離」となっている。	○	○		
	19 名鉄瀬戸線については、運行上の大きな問題はないものの、定住者の通勤通学が中心の路線であるため、観光目的の利用者の獲得を課題としている。	○	○		○
	20 名鉄バス、名古屋市営バス、あさぴー号については、交差点や踏切の交通渋滞により、遅延が発生している。		○	○	○
	21 名鉄バス、あさぴー号、一般タクシーについては、乗務員不足が深刻な問題となっている。	○	○		○
	22 一般タクシーの需要が高まっており、配車が追い付かず予約をお断りすることがある。	○	○		
	23 本市との連携とともに、周辺市町を含めた地域が連携して公共交通ネットワークを形成することが重要である。	○	○		○

調査項目	現状や課題	集約課題				
		①	②	③	④	
市民懇談会 P31	24	名鉄瀬戸線については、通勤通学時間帯の混雑や駅周辺の活気のなさが課題として挙げられた。	○	○	○	
	25	藤が丘や神領へのアクセス性の悪さが課題として挙げられた。	○			
	26	あさび一号については、長大路線であること、運行ダイヤ、荷物置き場や乗りこぼしの発生が課題として挙げられた。		○		
	27	一般タクシーについては、駅に待機していないこと、予約ができないことが課題として挙げられた。	○	○		
	28	自動車については、南北方向の道路の不足や、踏切・駅周辺の渋滞が課題として挙げられた。	○	○	○	
	29	自転車については、自転車道、駐輪場の整備や乗車マナーが課題として挙げられた。			○	
	30	徒歩については、歩道の整備が課題として挙げられた。			○	
現計画の評価 P32～38	31	現計画に位置付けた施策はすべて着手済となっているが、令和4年と平成24年の市民アンケート結果を比較すると、交通手段別満足度では名鉄バス、自転車が低下し、その他バスや一般タクシー、自転車についても低い値となっている。	○	○	○	○
	32	名鉄瀬戸線については、平成24年と比較すると終発時刻や運賃に対する不満割合が低下したが、運賃については、令和4年も不満割合が高くなっている。また、駅周辺の魅力についても、引き続き不満割合が高くなっている。	○			○
	33	名鉄バス及び名古屋市営バスについては、平成24年と比較すると運行本数に対する不満割合が低下したが、運行本数については、令和4年も不満割合が高くなっている。また、バス停の近接性についても、引き続き不満割合が高くなっている。	○	○		○
	34	あさび一号については、平成24年と比較すると始発時刻や運行情報に対する不満割合が低下したが、運行本数については、引き続き不満割合が高くなっている。		○		○
	35	一般タクシーについては、運行状況や予約、運賃について不満割合が高くなっている。	○	○		○
	36	自動車については、平成24年と比較すると駐車場の整備に対する不満割合が低下したが、渋滞や道路構造、交差点処理については、引き続き不満割合が高くなっている。	○	○	○	○
	37	自転車や徒歩については、平成24年と比較すると通行しづらさに対する不満割合が低下したが、危険箇所の多さについては、引き続き不満割合が高くなっている。			○	○
上位・関連計画 P39～48	38	第五次尾張旭市総合計画では、交通分野の施策においてめざす姿として「市内・市外への移動を円滑に行うことができます」という姿を掲げている。	○	○	○	○
	39	尾張旭市都市計画マスタープランでは、交通分野の都市づくりの目標に、公共交通の充実や道路の整備などによる円滑な道路交通ネットワークの実現を掲げている。	○	○	○	○
	40	尾張旭市立地適正化計画では、「歩いて出かけたくなるまちづくりを進めます」という方針を定めるとともに、名鉄瀬戸線各駅を都市の拠点として位置付け、交通結節点としての機能強化を図る施策を推進している。	○	○	○	○
	41	尾張旭市健康都市プログラムでは、交通に関する施策「誰もが自由にまちの中を移動できる環境の整備」を掲げ、バリアフリー化や公共交通網の整備を位置づけている。		○	○	○
	42	尾張旭市環境基本計画では、施策「二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量を減らす」の中で、公共交通や自転車の利用促進を位置づけている。	○	○	○	○
	43	尾張旭市第6期障がい者計画・第6期障がい者福祉計画・第2期障がい児福祉計画では、交通に関する主な取り組みとして、市営バスの利便性向上やタクシー料金助成による外出支援を位置づけている。	○	○		○
	44	尾張旭市高齢者保健福祉計画では、交通に関する取り組みとして、高齢者外出支援助成、移送サービスの利用助成を位置づけている。	○	○		○
45	尾張旭市地域防災計画では、災害時の道路、鉄道等交通施設の応急復旧活動の実施や輸送機能の確保等を位置づけている。	○	○	○	○	
社会情勢 P49～52	46	先進国を含む国際社会全体の開発目標として、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) の17のゴール(目標)と169のターゲットが掲げられ、様々な取組が進められている。	○	○	○	○
	47	令和32年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指し、脱炭素型の地域交通の整備等が地域脱炭素ロードマップに施策として位置づけられている。			○	○
	48	Society5.0を実現するためにDXの推進が求められており、MaaS (Mobility as a Service)、AIを活用したデマンド交通など新たな技術を活用した取組が進められている。	○	○	○	○
	49	新型コロナウイルスによって交通事業者の経営状況は厳しい状況にあり、with コロナにおける公共交通サービスのあり方や、減少した利用者を回復する施策展開が必要となっている。	○	○		○
	50	活性化再生法の一部改正やあいち交通ビジョンにおいて、地域の輸送資源を総動員した持続可能な交通ネットワークの構築が求められている。	○	○		○
	51	リニア中央新幹線は広域交通ネットワークを形成し、愛知県の各地域において、社会・経済に大きな波及的効果を与えると考えられる。	○			○
	52	令和4年11月に、愛・地球博記念公園内に「ジブリパーク」が開園し、県外や国外からの集客による経済効果が期待されている。	○			○
	53	自動車運転の職業における有効求人倍率は全職業の平均に対して高く、路線バスや一般タクシーを含めた公共交通を担う交通事業者において、運転手が不足している。	○	○		○
	54	高齢者を中心に免許返納者が増加しており、免許返納後の移動手段として公共交通の需要が高まっている。	○	○		○